



＝ 南部・西部で合同開催 ＝

6月2日、南部支部と西部支部が合同で新歓パーティーを開催しました。当日はあいにくの大雨でJR阪和線・大和路線が運休する中、約100人の組合員と新規採用者が参加しました。4年ぶりの開催で、各テーブルからは笑い声が聞こえ、ジョッキを持って他の分会のテーブルに移動し、盛り上がる様子も見られました。お楽しみ抽選会では、「新規採用者 ver.」と「分会 ver.」の2種類の賞品が用意され、南部支部青年部の司会により進められました。予定していた2時間はあっという間に過ぎ、名残惜しみながらの閉会となりました。

新歓交流集会を開催

— 事務職員部 新規採用者歓迎集会 6/8 —

市教組事務職員部は、6月8日、新規採用者歓迎集会を開催しました。新規採用者8人の参加と多くの先輩組合員が参加し、総勢40人での開催となりました。吉川事務職員部部長から「日常の“当たり前”に働くことのできる日々の背景に市教組の取り組みがある。歓迎集会を通じて市教組のことを少しでも知ってください。」と挨拶があり、歓迎集会がスタートしました。新規採用者は、所属の地区事務職員部ごとにテーブルを囲み、先輩組合員との交流を深め、歓迎集会は大いに盛り上がりました。

当日に新規採用者の方の加入もあり、組織強化・拡大にむけた良いスタートとなりました。今後、各地区事務職員部での歓迎集会が開催されるなど、引き続き、市教組事務職員部は、組織の強化と拡大に向けて、全力で取り組みます。



2023 年度末教職員人事異動に伴う事前相談

日時：7月24日（月）～28日（金）13:00～18:00

場所：市教組本部 会議室（アネックスパル法円坂2F）

*事前申込みが必要です。相談を希望される組合員は事前相談用の「自己申告書」「更新以降申出書（再任用）」に必要事項・相談希望日を記入のうえ、返信用封筒にて市教組まで申し込んでください。申込みの締切りは6月30日（金）です。

7月の組合費の引き落としは

7月20日（木）

※働きがいのある職場を実現
するため、なかまの声かけて
組合員を増やしましょう！

女性部が定期大会を開催！

5月31日、第64回市教組女性部定期大会を開催しました。今年度は、新型コロナウイルスが2類から5類になったことにより、今まで行ってきた定期大会と同じ形で開催することができ、多くの組合員の皆さんが参加されました。

討論では、三人の代議員の発言がありました。南部支部からは、太平洋戦争時の学徒動員体験の記録や社会的風潮について学習したこと、全盲の世界や盲導犬について学んだこと、水平社宣言から百年たった今も残る部落差別について学んだことの報告がありました。

真住中分会の家原代議員からは、5月31日の朝、北朝鮮からのミサイル発射により、Jアラートが鳴り響き、TV局全局が一斉に取り上げていたことに危険性を感じる。国は、防衛費の増額のことや敵基地攻撃能力まで持とうとしている。今、踏ん張らなくてはいけない。まずは職場で憲法のことを伝えたい。八の日行動の取り組みにも積極的に参加していきたい、との発言がありました。

東部支部からは、性の多様性の講演会を行ったとき、学生時代に多様な性について学ぶことはとても重要であるとお話がありました。大阪市・兵庫県の教員や元教員作っている「性別思い込みあるある」を使用してたくさんの学校で伝えてもらえたらと思います。男女の帽子を統一するなど、ジェンダーレスの取り組みが進んでいるとの報告がありました。

質疑応答・討論の後の採決では、2023年運動方針（案）が圧倒的多数の賛成で可決されました。女性部は市教組本部と連携し、つながり支え合える仲間を増やして、働きやすい環境をつくっていききたいと思います。

◇ 「命どう宝 沖縄戦とガマ」～沖縄の歴史を子どもたちにどう伝えるか～

日時：7月5日（水）18:30～ 場所：アネックスパル法円坂3F1号室

講師：山本 隆司さん（沖縄県教職員組合 元執行委員長）

※学習会終了後に2学期分のパーランク貸出しの抽選を行います。貸出しを希望される分会は必ずご参加ください。

夏期一時金について期末手当1.2月分、勤勉手当1.0月分
支給日6月30日の回答を引き出す!! ～ 5/23 市労連団体交渉

広報部メモ

数年前からの要望が叶って、集会時の整列がやっと男女混合出席番号順になった。まだ男女別のものであり、一度に変えられないのはなぜだろうと思う。校区内小学校の先生からは、小学校では男女混合で生活していたから、子どもたちは分けられる方が違和感を感じるかも…と聞いたことがある。小学校でできていることを、なぜ中学校でできなくしてしまうのだろう。

校内研修会で講師の方から、学校の中で本来分けなくてもいいのに分けているものは何か考えてみよう、と投げかけられてハッとしたのはずだ。多様な性を大切にすることを学んでこなかった大人たちの考えが柔軟になるには時間がかかるのか。私より若い人ばかりなのに…（さ）

学校ICT化に関するアンケート Part4

3. 運用面に関すること（心の天気、欠席連絡アプリ、自動採点システムなど）

その他（続き）

- 活用すると便利だが、まだ慣れない。
- 学びのポータルが開かないことが度々あり、ページを全員が開くまでに時間がかかる。
- まだまだ軌道に乗れていないところがある。
- 夜間在籍年数が最大9年あることに全く対応していないシステムなので、出席や在籍、指導要録などに使用することができない。ログインまでのハードルも高いので、生徒さんの使用ができない状態が続いていることと、Wi-Fi環境のない家が多く、それに対応する貸し出し用のWi-Fiが数台しかないので、欠席連絡アプリは実質的に使えない。その他、昼の生徒や学校に合わせたシステムになっているので、ほとんど使えないものばかりになっている。
- タブレットに児童用教科書を入れたい。
⇒校費で購入したデジタル教科書であればインストールすることができます。

4. その他、お気付きのこと

- ECの研修がオンラインやオンデマンドになったことは、ありがたい部分もある。（移動の時間を要しないため。）
- 教頭先生の負担が大きいのでは？（PC更新の際、古いものが見当たらない。PCの管理番号と委員会からの表を照合して、PCのバージョンアップ更新ができていないかの確認など。）
- 詳しくは分かりませんが、管理作業員さんには自分のPCがないところも多いと聞くのですが。
- PC操作が苦手な者には、ついていくのに必死。ICT化は教育的にも事務的にも必要不可欠であると思うが、子どもたちの心のケアをするには、人と人とのつながりが基盤になると感じる。なので、ICTはあくまでも事務処理の効率アップと教育効果をアップするための便利なツールになることを大前提として、学校ICT化を深化させてほしいと強く願う。
- 運営に関する計画にICTの活用目標が数値化され、「“評価のため”に活用しないといけないという感じがする」という話もでた。便利で、活用していかないといいけないことは分かるが、“児童のため”ではなく“評価（数値目標）のため”となりかねないことに疑問がある。
- 教員に仕事用の携帯電話、あるいはスマホを貸与できないのか？プライベートのスマホを仕事で使わざるを得ないことがあり、非常に重圧感がある。
- ICT機器に関する知識が教職員間で差があり、分断や不平等感を生んでいる気がする。
- ICTの利点と欠点を教員がしっかり理解してから使用しなくてはいけない。ICTに偏りすぎも危険だし、そのバランスが必要だと思う。
- 必要なことだと分かっているがICTの速度についていけず、他の面では一応の自信はあっても、退職を考えてしまう。今は教室に入り、授業を担当することがほぼないので、次に担任等ができるのか、不安が大きい。
- とにかく現場任せ、好きなように使っている感じが強い。

- 小テストの結果がすぐに数字で出る。正解者①38%②65%③42%④52%⑤6%・のように終了時にたちどころに分かる。「～人くらいの方が分かっています」「これができる人は素晴らしい」「これを間違った人はよほど頑張らないと」というようなコメントが担任からなされる。その子どもがなぜそうなっているのか、落ちこぼれそうな、あるいは落ちこぼれている生徒にどう関わるのか。「個に応じた最適の教育」の名の下にエリートづくり、差別選別の教育をしているのではないだろうか？さらにそういうことを心配するのは一定の年代以上の人に限定されている。こういうことを交流しながら話し合う場を組合で作ってほしいと思う。
- つめ込み過ぎ感がある。一つ一つのツールは便利でも、運用する計画・準備が整っていない現場はふり回されている。具体的には、ICTに特化した人員を常駐させることや、児童用端末のスペックを高めるところをお願いしたい。
- 本気でICT化を進めるのであれば、専門の支援員が常駐することは必須だと思う。今のよう定期訪問の形態だと、トラブルが起きたときに対応できない状況となることも多々あるため、ICTの導入をためらわざるを得ない局面が非常に多くなる。
- うまく使いこなせる人がしっかりと伝達して子どもに返せればよいが、そういう時間も取りにくい。わかりやすい（すぐ手にとれる）ガイドブックなどがあればいいと思う。
- 何でもかんでも現場に丸投げしないでほしい。あと実際にやってくれるサポートの人を来させてほしい。
- 学校ICT化とはいうものの、使えなかったり、使うにはハードルの高いシステムを導入され、ICT弱者の方にとっては厳しい状態が続いているように思う。また、今年度予算ですべてのクラスに設置できるよう電子黒板を公費で購入しようとしたところ、事務の方から「必要なときに各クラスへ持ち込む現状の運用ではダメですか」と却下された。その後、電子黒板を教室に入れるのを手伝ってくれた生徒さんがケガするはめになったので、早急に各教室1台の電子黒板設置を実施したいです。
- 業務システムの運用時間の拡大してほしい。（土曜日など勤務の場合があるため）
- 教室内の環境が劣悪。端末の棚（充電用）の設置、給食用配膳棚の設置と続き、現状のままのクラス定員ではギュウギュウ詰めです。非常に狭い学習環境の中で（40人を超える場合もあり）、1日5～6時間の学習が効果的に行えるのか、教育委員会の方には是非、実際に教室に入って座っていただきたい。端の方の席からは、黒板の文字も見えない。
- 研修を集合研修よりオンライン（Teams）で行ってほしい。移動に時間とお金がかかる。特にICT担当研修がなぜかオンラインではない。（特支の研修はオンラインなのに）
- 問題となることも多かったが、古き良き時代（特に大阪）をふり返ることが多々ある・教育の原点というか、何のためにこの職を選んだのかを常にふり返らないと、どんどん意味不明なものに流されてしまいがち。他の方々の意見が知りたいとも思う。
- ICTに追われていて、本当に教育的効果があるのか、きちんと検証したり、必要性を教職員にアンケートを取るなどしてほしい。
- 貸与されているPCでは、従来のような技術科の情報の授業ができない。デスクトップPCを復活させてほしい。

アンケートのご協力ありがとうございました。